



安全なケイブツアーのために

ほとんどのケイブツアーは激しい動きを伴い、でこぼこしたトレイルを歩いたり、屈みながら進んだりすることもあります。すべてのツアーには上り下りがあります。参加者は単独行動をしたり、鍾乳洞トレイルを外れて歩いたりしてはなりません。鍾乳洞内は禁煙です。子供は鍾乳洞内では保護者と一緒に行動しなければなりません。そしてすべての人はあらかじめ決められたツアーの経路に従って歩かなければなりません。鍾乳洞内の壁に落書きをしたり、記念に鍾乳洞内の石を持ち出したりしないでください。手すりがあるところでは手すりを使ってください。一定の楽なペースで歩いてください。くれぐれも走らないでください。

マンモスケイブを探検しよう

鍾乳洞システムを形成した浸食の作用は、この地域全体の地形も形作ってきました。河川、崖、シンクホール、鍾乳洞開口部、そして尾根の頂部は多様な動植物の生息地となっています。湿地や成熟した森林など、比較的規模は小さいけれども特別な生息地を提供し、国立公園やケンタッキー州の生物多様性にとって大きな役割を果たしています。公園区域のほとんどは森林に覆われていますが、多くは二次林です。小さい区域ですが、ケンタッキー州では珍しい比較的人の手が加えられていない成熟した森林もあります。谷底の平らな部分にはアメリカブナが多く、斜面の中間部から下部ではイエローポプラやシュガーメイプルが混じっています。ホワイトオークやブラックオークは3種のヒッコリーとともに斜面の上部に特徴的にみられます。

マンモスケイブ国立公園の森林は、多様な野生生物の“棲み家”になっています。東部ホワイトテイルディアーが道沿いで草を食べている姿をよく見かけることもできるし、野生の七面鳥の群れに出くわすことも珍しいことではありません。公園内のトレイルを歩けば、東部の広葉樹林を楽しむことができます。ほ乳類では、リスやチップマンク、アライグマなどが最もよく見られます。

この地域を流れる河川の水位の基準ともなっているグリーン川は、マンモスケイブシステムの形成

と健全さにとっても中心的な役割を果たしています。グリーン川は、北アメリカの中でも最も多様な生物が生息している川のひとつとして知られており、82種の魚が生息しています。グリーン川上流の砂利の多い浅瀬は、アメリカ国内で絶滅が危惧されている動物群のひとつである淡水貝類にとって大変重要な生息地となっています。公園内だけでも50種以上の貝類が発見されており、そのうち7種は絶滅危惧種に指定されています。その他4種も指定が検討されています。グリーン川や公園内で最も大きなグリーン川の支流であるノーリン川の川岸は野生生物に満ちています。シカ、アメリカオシドリ、カメ、カワセミ、オオアオサギなどをよく見かけることができます。

マンモスケイブ国立公園には、様々な動植物にとって欠かせない、小さいけれども特別な生息地があります。小さい池や小川の岸には、少なくとも1種の希少なスゲや数種のイグサ、タヌキモ、クズウゴン、槍型の葉をしたスマシなどの“生息保護区”となる湿地を形成しています。シンクホールや鍾乳洞の開口部は、乾燥した尾根筋にみられるものとは異なる植物に対し湿性の微気候を提供しています。かつて、ケンタッキー州の中部や東部の多くの地域に典型的に見られた草原を構成する自生種は、公園内の道路沿いや森林内にパッチ状に点在しているのが見られます。公園北部の砂岩の峡谷では、アメリカツガやキハダカンバ、アンブレラマグノリア、アメリカヒイラギなどを見ることができます。

マンモスケイブ国立公園は、地下の鍾乳洞システムと森林などの地表域との二つの部分に分けて考えられることがあります。しかしながら、これら二つは、大きな全体像の中の一部に過ぎず、鍾乳洞、地形・景観を形成し、また生き物の共同体を育てているような自然の力によって統合されているのです。

利用案内

マンモスケイブ国立公園は、ケンタッキー州のルイビルと、テネシー州のナッシュビルのいずれから85マイル(約136km)程度です。I-65から48番出口(パークシティ)、あるいは53番出口(ケイブシティ)で降ります。公園は中部時間帯に属しています。北から来る場合は1時間時計を遅らせる必要があります。ナッシュビル、ルイビル、ボーリンググリーンには空港とレンタカーがあります。

公園の入園料は無料ですが、6歳以上のツアー料金は有料です。キャンプをする場合も料金がかかります。ガイドツアーのスケジュールやビジターセンターの開館時間、夜間のプログラム、公園内のハイキングやトレイルの地図、障害のある方にも利用可能な施設、プログラムなどの情報については、無料のマンモスケイブガイド新聞(Mammoth Cave Guide)をご参照ください。



キャンプ

3つのキャンプ場も利用可能ですが、利用期間は最大14日間までとなっています。すべてのキャンプ場には、トイレ、グリル、テーブル、水はありますが、キャンピングカー用の接続施設(hookup)はありません。ホーチンズフェリーキャンプ場は基本的には先着順です。マンモスケイブキャンプ場は予約をお勧めします。より大きな団体利用や馬と一緒に利用できるメイプルスプリングキャンプ場は予約が必要です。

事前予約については、電話:270-758-2328、もしくはホームページ(URL: <http://www.nps.gov/mac>)を参照してください。バックカントリーでのキャンプは、13ヶ所の指定地、川岸や川の中洲でのみ可能で、かつ利用には許可が必要です。ビジターセンターで無料の許可証を手に入れることができます

レンジャープログラム

ビジターセンターでは、レンジャーによるオリエンテーションが行われています。季節に応じた、より長い地上のアクティビティはそれぞれ指定の場所から出発します。マンモスケイブキャンプ場では、レンジャーによる円形のひな壇式ベンチ(amphitheater)で季節限定のプログラムが行われ

ています。キャンプ利用者でない方用の駐車場もあります。

ジュニアレンジャープログラム

6歳から13歳までの子供であれば、研究プロジェクトを行い、レンジャープログラムに参加することでジュニアレンジャーになることができます。研究プロジェクトのためのジュニアレンジャーブックレットは、ビジターセンターで購入することができます。学校のグループなどは、公園の環境教育プログラムを受けることができるかもしれません。詳しい情報については、プログラムコーディネーター(270-758-2354)に電話してください。

周遊ボート

4月から10月には、川の状態にもよりますがミス・グリーンリバーⅡ号で約1時間のクルージングを楽しめます。チケットはビジターセンターで購入できません。詳しくは270-758-2243に電話してください。

歩道

ビジターセンターの裏側にあつて公園の歴史的なお墓を周回しているヘリテージトレイルは車椅子でも利用可能です。グリーン川の北部には60マイル(約96km)にも及ぶハイキングトレイルがあります。川の南部にも10マイル(約16km)程度のトレイルがあります。

サイクリング

ヘッドクォーターキャンプ場と管理車両専用道路の間には、1マイル(約1.6km)程度の砂利敷自転車道があります。

ボートとカヌー

公園内のおよそ30マイル(約48km)に及ぶグリーン川とノーリン川をボートやカヌーで下ると、印象的な絶壁を見ることができます。カヌーは公園外のレンタルショップから借りることもできます。

釣り

グリーン川やノーリン川では、アメリカカワカマス(Muskie)、バス、ニシスズキ(White perch)そしてナマズが釣り人達を待っています。公園内での釣りには許可証は必要ありませんが、しかしながら、ケンタッキー州の釣りに関する規則は適用されます。それらの規則についてはビジターセンターに問い合わせてください。

安全な利用のために

公園内での規則や制限、鍾乳洞内での事故を防止するための注意事項などについては公園新聞(park newspaper)を参照してください。
 ・ペットについては色々な制限がありますが、マンモスケイブホテルでは犬の一時預かりサービスを利用することができます。
 ・ダニ(tick)、ツツガムシ(chigger)には注意しなければなりません。また、公園内にはガラガラヘビ(timber rattlesnake)と北アメリカマムシ(northern copperhead)という2種類の毒ヘビがいます。
 ・公園内のすべての動物は法によって保護されています。いじめたり、殺したりしてはいけません。生き物には決して餌を与えてはいけません。もし公園の中での活動について質問があればビジターセンターに問い合わせるか、もしくはレンジャーに尋ねてください。

宿泊施設とサービス施設

マンモスケイブホテルは年中無休で、宿泊用の部屋、レストラン、ガソリンスタンドが利用できます。春から秋には質素なコテージ、キャンプ場売店、シャワーやコインランドリーも利用できます。予約やより詳しい情報についてはForever/NRC Resort, LLC, Mammoth Cave, KY 42259-0007、電話(270-758-2225)まで手紙か電話でお問い合わせください。

公共のトイレ、シャワー、コインランドリーはガソリンスタンド、売店、郵便局の近くにあります。地図上のサービスセンターというところです。

他の民間所有の鍾乳洞や宿泊施設、その他公園外のサービスについては、ケイブシティコンベンションセンター(1-800-346-8908)に電話してください。



地表と地下: 水によってつながれた生態系

マンモスケイブ国立公園の砂岩によって覆われた尾根の下には、世界でもっとも大きな鍾乳洞システムが広がっています。すでに4000千年にも渡る断続的な探査にもかかわらず、水によって形作られた迷宮の全貌は未だにわかっていません。探査された350マイル(約560km)以上の通路だけをとっても、マンモスケイブは、現在発見されている他の鍾乳洞の少なくとも3倍以上大きいのです。では、実際にはどのくらい大きいのでしょうか?地質学者は、まだ発見されていない洞窟が600マイル(約960km)くらいあるに違いないとみています。

この広大な鍾乳洞システムは、世界で最も多様な鍾乳洞生態系を維持しています。マンモスケイブでは、およそ130種類の生き物を見ることができます。その多くはとても小さい生き物です。鍾乳洞を逆に避難場所として使う生き物もいれば、ここ以外には生息できないような特殊な鍾乳洞の居住者もいます。これらのすべての生き物は地上からのエネルギーに依存しています。鍾乳洞の中の生き物は、マンモスケイブ国立公園のほかの自然とも密接に関係しているのです。国立公園はそれ自体がより大きな生物的まとまりであり、その多様性や豊富な自然はそのままここに保存されています。鍾乳洞の中だけ散策して地上のトレイル(歩道)や水の流れを楽しま体験しないのは、全体像の半分しか理解していないことと同じですできないこととなります。

起伏が多く、森林で覆われた丘陵であるマンモスケイブ国立公園は、莫大な数の野生生物のサンクチュアリー(保護区)でもあります。道路脇で餌を食べているシカや七面鳥を見ることも多く、公園内の60マイル(約9.6km)におよぶトレイルを歩けば、北アメリカ東部広葉樹林の生き物に出会えるでしょう。グリーン川の存在は、生き物の生息地や景観の多様性をさらに高めています。公園内を27マイル(約43.2km)に渡って流れるグリーン川は、北アメリカでも最も生物学的に多様な川のひとつです。この豊かさが、1万年にも渡り人類をこの地方に引きつけてきました。

4千年前、少なくともマンモスケイブの鍾乳洞10マイル(約16km)は、有史以前の人々によって利用されていました。考古学的な形跡からは、これらの初期の鍾乳洞利用者たちは結晶や他の塩類を採集していたことがわかっています。鍾乳洞の利用はおよそ2千年前に途絶え、1798年に鍾乳洞が再発見されるまで再び始められることはありませんでした。

マンモスケイブはアメリカのツーリズムの黎明期において重要な役割を果たしました。利用者を引きつける場所としては、他のすべての国立公園より先行していました。1812年の戦争中に宣伝され、1816年までにはケンタッキー州の“巨大な”ケイブは人気の高い観光地となりました。自然景観が素晴らしい早早期に設立された他の国立公園とともに、マンモスケイブは19世紀には世界的強国の仲間入りをしようとしていたついに米国のアイデンティティを明らかにする一助ともなりました。強力な産業と軍を持つにもかかわらず、米国にはヨーロッパが誇るような伝統ある文化や歴史的な場所が欠けていると考えられていまうでした。自然の驚異は、そのようなものに匹敵する私達アメリカの財産となったのです。大きいことは美しい;マンモスケイブ、グランドキャニオン、ジャイアントセコイア。これらの“無比なもの”は、ラルフ・ワルド・エマーソンがかつてそれらのことを「自慢のもの」と呼んだそのままに現在も守られていますことを裏切らないものです。

世界遺産と生物圏保護区

マンモスケイブ国立公園は1926年に国立公園に指定され、1941年には正式に国立公園として開設されました。当時は、たった40マイル(約64km)の洞窟しか地図上に記録されていませんでした。測量などの調査技術が進歩するに従い、鍾乳洞システムの圧倒的な広がりか姿を現わし、理解されるようになってきました。公園内のいくつかの鍾乳洞はつながっていることが明らかになり、また今日では、鍾乳洞は公園の境界線を越えて広がっていることが知られています。公園は1981年に世界遺産に指定され、さらに1990年には国際生物圏保護区の中心的地域となりました。53,000エーカー(約214平方キロメートル)にもおよぶ地表面とその地下に広がる鍾乳洞システムにより、マンモスケイブ国立公園は

国際的にも重要な財産として認められるようになりました。

しかしながら、国立公園としての位置付けや国際的な認識は、マンモスケイブ国立公園の自然システムの継続的な保護や無傷の状態を保証してくれるものではありません。公園はそれ自体で独立したシステムとして存在しているわけではありません。鍾乳洞や鍾乳洞内の居住者(生き物)の生態系は、グリーン川のようなさらに大きな流域の中の地域的な地下水の流域の一部分に過ぎないである、ということが調査によって証明され続けています。地下水は公園の境界線をはるかに越えて流入しており、また洪水により水質が著しく悪化します。同様に大気汚染についての調査により、オゾン濃度が植物の生育にダメージを与えるほど高くなっているということがわかりました。これらの世界的規模の鍾乳洞、森林、そして河川の生態系を将来の世代のために保護していくために、私たちは協力して地域の大气や集水域全体を守っていかなければなりません。

鍾乳洞は今も広がっています

時間をかけて地下水が石灰岩を溶かすにつれて、その水は小さな流れを形成します。これらの小川は集まって、地上の川の流れようにマンモスケイブの地下に大きな川を形作っていきます。マンモスケイブの地質的な歴史全体を通じてから見ると、グリーン川はこの地域の主要な河川として谷を深く削り、谷を浸食して流れています。鍾乳洞の流れは、そのような川の流れに対応してより低くて新しい水路を形成していく際にに従い、高い位置の古い水路を放棄し、結果として新しい鍾乳洞通路のネットワークができあがるっていくわけです。現在、鍾乳洞の流れは地表から450フィート(約135m)の深さがあり、今日も洞窟“通路”を形成し続けています。鍾乳洞が形成されるに従って、多くの地表の水生生物がゆっくりと鍾乳洞の生息環境に適応していきました。うち数種は今日鍾乳洞の小河川に見られるような特別な動物に進化しました。このような鍾乳洞内の生物群集は、貧栄養生態系の一部であり、生存のためには非常にきれいな水が不可欠です。マンモスケイブを形成したものと同じ地質学的特徴もまた、鍾乳洞の生態系にとって脅威となっています。というのも、雨水がすぐに地下水となって、鍾乳洞内の生き物の生息地を流れているのと同じように、人間の出すごみ、農業排水、道路沿いの有害な流出物、オイルやガスの採掘の汚染などがは、容易に鍾乳洞内に流れ込むからです。

鍾乳洞内の地下水の多くは公園区域を越えて流入してくるという認識から、生物圏保護区域はマンモスケイブの集水域を取り込む形で定められています。今日、公園とその周辺の人々は、生物圏保護区プログラムを通して、公園外で行われている環境的に持続可能な農業、工業及び経済活動を促進しながら、鍾乳洞の保護を進めるために協力しています。

鍾乳洞とその資源の利用

1万年以上前、有史以前の古代インディアンたちは、マンモスケイブ周辺のグリーン川の谷で狩猟生活を送っていました。4千年から2千年前の間、後古代や初期の森林地帯インディアンたちは、マンモスケイブやその他の鍾乳洞を利用して鉱物を採掘していました。これら初期の利用者達によって残された人工的な遺物は、鍾乳洞の奥深くに残された、明かりとして使われていたアシの茎でできた松明(たいまつ)でさえ、乾いた鍾乳洞内でとてもよい状態で発見されています。

ヨーロッパ系アメリカ人の開拓移民達は、1790年代後半、グリーン川の谷に到着しました。土着の人々がマンモスケイブの利用法を発見したように、この移民達もマンモスケイブの利用法を見つけました。初期の鍾乳洞の使い方のひとつは、火薬製造において欠かせない原料のひとつである硝石の採掘です。1812年の戦争の開戦及び硝石の値段の高騰により、奴隷たちはこの鉱物を大量に採掘するために連れて来られました。

戦争が終わるまでにマンモスケイブの名は知られたり、1816年くらいから人々がマンモスケイブを訪ずれるようになりました。鍾乳洞オーナーの奴隷であるStephen Bishopや、MatとNickの Bransford兄弟は、伝説的なガイドとなりました。

Bishopは誰よりも多くの鍾乳洞を発見しました。彼は、それまで渡ることのできなかった“底なしの穴”と呼ばれていた場所を最初に渡った人物であり、そしてまた、鍾乳洞内の目のない魚として広く知られている生き物を最初に発見した人物でもあります。2人のBransfordやその子孫たちは、その後100年以上の間マンモスケイブのガイドを続けました。

ケイブツアー

事前情報

ケイブ(鍾乳洞)ツアーは、12月25日を除いて毎日行われていますが、ツアースケジュールは季節によって様々です。ツアーは有料で、ケイブツアーの中には特別な道具や服装を必要とするものもあります。ビジターセンターの開館時間も季節によって異なります。ビジターセンターでは、ケイブツアーの説明やスケジュール、地上でのアクティビティや特別なイベントなどの情報を提供しています。

Mammoth Cave National Park
Mammoth Cave, KY 42259-0007
270-758-2328
URL; http://www.nps.gov/mac

公園へのアクセス

ケンタッキー州ルイビル方面から南下してくる場合は、I-65 Southに乗り、南に向かうのが最短のルートです。53番出口(ケイブシティ)で降り、そこから公園のビジターセンターまで約15分です。

テネシー州ナッシュビル方面から北上してくる場合は、I-65 Northに乗り、北に向かうのが最短のルートです。48番出口(パークシティ)で降り、そこから公園のビジターセンターまで約10分です。

時間帯

マンモスケイブ国立公園やテネシー州のナッシュビルはセントラルタイムゾーン(中部時間帯)に属していて、ルイビル(東部時間帯)より1時間遅れています。

事前にツアーを予約しましょう

ケイブツアーは売り切れることも多々あります。夏季や祝日、週末はほとんど混雑しています。お好きなツアーを楽しむためにも、前もって予約することをお勧めします。

予約方法については、270-758-2328に電話するか、ホームページ(URL; http://www.nps.gov/mac)にさらに詳しい情報が掲載されています。

ビジターセンターで直接予約することも出来ますが、当日までにそのツアーがいっぱいになってしまう恐れもあるので、前もって予約する方がいいでしょう。

12歳以下のお子さんには割引がありますが、特段の注意書きがない限り保護者の同伴が必要です。さらに、6歳未満のおさんは無料です。

ペット

ビジターセンターの隣にあるマンモスケイブホテルではペットの一時預かりを行っていて、時間単位、あるいは日割の料金になっています。盲導犬などだけは鍾乳洞内の利用も許可されています。駐車中の車両内にペットが置き去りにされている場合、車両内の気温がペットの生存を危険にさらす恐れがあるため、職員が保護する場合があります。

子供を同伴している場合は?

子供がとても小さい場合は、短めのオリエンテーションツアーをお勧めします。16歳以下のすべての子供は保護者の同伴が必要です。ベビーカーの鍾乳洞内への持込みは禁止されています。赤ちゃんの背負子(back packs for infants)は許されていますが、ツアーによってはその使用が制限されます。通路の中には赤ちゃんの背負子にはとても低くて狭いところもあります。子供が頭に怪我をしてしまうかもしれません。ツアーの中にはトイレを使用できるものとできないものがあります。

持ち物に関する注意事項

写真撮影は許可されていますが、三脚の使用は禁止されています。ビデオカメラも使用可能ですが、鍾乳洞内で歩きながら、もしくは階段を上り下りしながら使うことは禁じられています。懐中電灯、ヘッドランプはツアーが動いているときには使用可能ですが、ツアーが止まって説明を受けている時などは使用しない方がいいでしょう。他のビジターに十分に配慮してください。薄暗い鍾乳洞内で他の人の目にライトを当ててはいけません。

服装と靴

厚い底の丈夫な靴やトレッキングシューズを着用してください。サンダルや裸足はどうぞご遠慮ください。薄い上着を持ってくることをお勧めします。鍾乳洞内の気温は60°F(約16℃)くらいです。冬は暖かい服装で来て下さい。

